

2016年事業報告

1. 理事会・総会

日 時	2016年2月13日(土) 午前11時(理事会) 午後1時(総会)
場 所	大阪キャッスルホテル
議 事	(1) 2014年度事業報告 (2) 2014年度決算報告 (3) 2014年度会計監査報告 (4) 2015年度事業計画(案) (5) 2015年度予算(案) (6) 新役員の選出について
記念講演	「琉球—基地と自治をめぐる課題」 松島泰勝さん／龍谷大学教授 (講演内容は「市政研究」第191号(2016年春季号)に収録)

2. 第1期・第2期「市民自治講座」の開講

□趣 旨

経済的価値観への一元化、人口減少と少子高齢化、都市及び中山間地域の衰退、ポピュリズムの勃興、ナショナルなものへの偏愛や非寛容の精神の跋扈など、危機は今そこに遍在しています。

私たちはこれらの動きを、自治と民主主義の危機ととらえ、そのような時代潮流に抗して市民の自立と自律、自主と自治、共感と共生(連帯)を回復していく必要があると考えます。このためには、市民が小さな空間を足がかりに、そこからコミュニティや都市を再生していくことを通して、深刻化する社会の問題に立ち向かっていくほかありません。その基礎には市民みずからが自治の哲学をつくりあげていくことが必要です。

「市民自治講座」は、これまでに蓄積されてきた人類の知恵から学ぶとともに、熟議を通して、新しい市民自治の姿を思い浮かべ、地域にねざした市民社会のつくり方を学び、市民の手で明日の自治をともに築いていくための基礎とすることをめざして開講します。

- ・主 催 「市民自治講座」実行委員会(NPO政策研究所・大阪市政調査会で構成)
- ・講 座 連続3回で構成する講座を年2回程度開催予定。
- ・会 場 原則として大阪市内(市民活動スクエア「CANVAS 谷町」など)
- ・参 加 どなたでも。定員30人程度。連続参加を原則(スポット参加も可能)。

□第1期「市民自治講座」

- ・テーマ 民主主義再考—原理的に考える
- ・講師 岡本仁宏さん（関西学院大学）
- ・日程 3月26日（土）・4月30日（土）・5月28日（土）午後2時～5時
- ・会場 市民活動スクエア「CANVAS 谷町」

□第2期「市民自治講座」

- ・テーマ トクヴィルと《平等》の政治力学
- ・講師 富永茂樹さん（京都大学）
- ・日程 9月24日（土）・10月29日（土）・11月19日（土）午後2時～5時
- ・会場 市民活動スクエア「CANVAS 谷町」・国民会館
（講座の内容は「市政研究」第192号（2016年夏季号）から連載中）

3. 橋下市政検証プロジェクトの活動

2015年5月17日実施の住民投票の結果を受け橋下氏が市長辞任を表明。その市政は任期4年（2011年12月～2015年11月）で幕を閉じた。

橋下市政の4年間で、大阪市の行政運営はどのように変容し、市民や市役所内部にどのような影響をもたらしたのか。全国的・歴史的にも稀有な橋下市政の4年間をつぶさに検証し、今後の取り組みの一助とすべきとの市職からの提案を受け、市労連全体で取り組むべき課題であるとの認識のもと、橋下市政検証プロジェクトを2015年8月に発足させ作業を進めている。

メンバー 三浦哲司さん（名古屋市立大学）

西橋浩司（市労連）

林 鉄兵（市職）・福田 弘（市職）

別当良博（市政調査会）・西部 均（市政調査会）

経過 第5回プロジェクト 1月18日（月）午後3時～

「文化施策をめぐって」

ゲストスピーカー 中川幾郎さん（帝塚山大学）

第6回プロジェクト 3月9日（水）午後3時～

「大阪市財政と『市政改革プラン』」

ゲストスピーカー 森 裕之さん（立命館大学）

第7回プロジェクト 5月2日（月）午後3時～

「橋下市政期における子ども施策・教育施策をどうみるか」

ゲストスピーカー 住友 剛さん（京都精華大学）

第8回プロジェクト 6月27日（月）午後3時～

「橋下市政における教育改革の課題—学校選択制の導入を軸に一—」

- ゲストスピーカー 濱元伸彦さん（京都造形芸術大学）
 第9回プロジェクト 9月15日（木）午後3時～
 第10回プロジェクト 11月2日（水）午後3時～
 「現場からみる西成特区構想」ヒアリング
 第11回プロジェクト 12月5日（月）午後3時～

4. 大阪の自治を考える研究会の活動

大阪の自治を考える研究会は、維新の会が掲げる大阪都構想についての情報収集と動向分析、情報発信に取り組むべく2010年12月に発足し、情報収集と分析の成果は、計3回、ブックレットとしてまとめ出版している。2015年5月17日、大阪市廃止・分割の是非を問う住民投票が行われ、反対が賛成を上回ったことで都構想は否決された。しかし、否決されたはずの都構想への再挑戦がはじまっており、この研究会も活動を継続している。

- 参 加 大阪地方自治研究センター・自治労大阪府本部
 大阪府労連・大阪市労連・大阪市政調査会など
- 経 過 第45回研究会 1月27日（水）午後6時30分～
 「住民投票、市長選挙を振り返って」
 ゲストスピーカー 川島広稔さん（大阪市会議員）
 第46回研究会 2月25日（木）午後6時30分～
 「知事・市長のダブル選挙をたたかって」
 ゲストスピーカー SADLメンバー
 第47回研究会 4月22日（金）午後6時30分～
 「しみんマニフェスト大阪UPの取り組み」
 ゲストスピーカー 林 大造さん（大阪UPメンバー）
 第48回研究会 7月20日（水）午後6時30分～
 第49回研究会 8月18日（木）午後6時30分～
 第50回研究会 9月26日（月）午後6時30分～
 「大阪市水道事業の民営化問題について」
 ゲストスピーカー 武田かおりさん（AMネット事務局長）
 第51回研究会 11月11日（金）午後6時30分～
 「大阪市の水道事業の今後について」
 ゲストスピーカー 辻谷貴文さん（全水道書記次長）
 第52回研究会 12月21日（水）午後6時30分～

5. 会誌「市政研究」の定期発行

会誌「市政研究」については、第 190 号（冬季号）では**特集●市民の声を大阪市政**にを発行。この特集は、住民投票で大阪市の存続が決定されたのを受けて、市政の転換と再構築への課題をめぐって、研究者の方々に問題提起をいただいた前号の特集「橋下後の大阪市政を考える」の続編である。特集では、大阪をフィールドに多様な分野で活動する市民活動家の方々に、それぞれの課題にかかわって、市政のこれまでとこれからをどのように考えるのか、ご寄稿いただいた。執筆者のなかには維新「改革」の余波をまともに受けた当事者もいる。

第 191 号（春季号）では**特集●子どもの貧困とその施策を考える**を発行。2013 年 6 月、議員立法として提案された「子どもの貧困対策法」が成立、翌年 1 月から施行された。しかし、法律は実効性の担保されたものではなく、施策の具体的な内容は政府や自治体のやる気にかかっている。いまや子どもの 6 人に 1 人が貧困状態で、大阪府では全国数値をさらに上回り 5 人に 1 人が貧困状態にある。子どもたちに食事を無償提供する「こども食堂」の輪が全国に急速に広まり、国や自治体の施策も少しずつではあるが前進している。しかし、子どもの貧困の根絶には、社会全体の貧困とたたかっていく必要がある。貧困の鎖をどうすれば断ち切れるのか、子どもを軸に考えた。

第 192 号（夏季号）では**特集●憲法は誰のものか**を発行。2016 年 7 月の参議院選挙の結果、衆参両院で、いわゆる「改憲勢力」が 3 分の 2 の議席を占めて、憲法発議ができる勢力分布になった。もちろん憲法は決して不変であるべきものではない。しかし戦後 70 年、日本社会は内外のさまざまな難題に向き合い、現在も多くの難題に向き合っている。そうした社会の枠組みをそれでも支えてきたのは現憲法ではなかったのか。特集では、現憲法が果たしてきた役割や意義を問い直し、憲法とはそもそも何で、誰のものか。憲法を活かし社会に根づかせていくための課題とは何か、市民・生活者の視点から再考した。

第 193 号（秋季号）では**特集●消費増税再延期を問い直す**を発行。2016 年 6 月、安倍首相が消費税 10%への引き上げの再延期を表明した。その結果、増税によって社会保障の充実投入されるはずだった財源の穴が開き、低年金・無年金の高齢者の救済措置などの施策が見送られた。消費増税は 2012 年の民主・自民・公明の 3 党合意に基づく「社会保障と税の一体改革」が原点で、増税を財源に子育てや年金・介護などの社会保障を充実する枠組みである。しかし、引き上げ再延期によってその枠組みは崩れたとあってよい。90 年代後半以降相次いだ租税負担率の引き下げによって、国・自治体の財源不足はすでに恒常化している。膨れ上がる国債残高と窮乏化する財政のなか、これからが陰しくなる少子高齢化の登り坂をどうやって乗り切るのか。増税再延期で問い直しが迫られることになった財政や社会保障・福祉をめぐる課題、自治体の課題を考えた。なお、各号の内容は下記のとおり。

□第 190 号（冬季号） 2016 年 1 月

特集●市民の声を大阪市政に

ローカル・マニフェスト運動からみた

「都構想」住民投票、2015 年大阪市長選

大阪市の「子どもの家事業」廃止問題

大阪市のジェンダー施策を考える

多文化共生都市・大阪の課題

釜ヶ崎における困窮者「支援」

大阪人権博物館の歴史的意義と現代的役割

林 大造

生田武志

中野冬美

金 光敏

尾松郷子

吉村智博

図書紹介

尹 誠國著『韓国における地方分権改革の分析』

伍賀借子

連載●なにわ路上観察紀行 第 43 回 兵庫県尼崎市界限

遊女が招く近松門左衛門ゆかりの地

前田和男

おおさかミュージアム雑感 (21)

堺のまちを垣間見る

加藤英一

連載●朝日新聞資料探訪 第 34 回

写真でみる飛行会①

石原佳子

続・韓国通信 漢江の辺にて (25)

民主化運動時代の追憶

金 徳 煥

□第 191 号（春季号） 2016 年 4 月

特集●子どもの貧困とその施策を考える

政府の子ども貧困政策をどうみるか

原 昌平

貧困の固定化と世代間連鎖

道中 隆

ひとり親家族の「自立」と社会的支援

神原文子

児童養護施設の子どもたちへの支援とその課題

橋本達昌

子どもの貧困と都市自治体の子ども政策

上林芳夫

図書紹介

原伸子・岩田美香他編『現代社会と子どもの貧困』

千本沢子

延藤安弘著『こんなまちに住みたいナ』

竹内孝治

連載●なにわ路上観察紀行 第 44 回 兵庫県加古川市界限

玄関はチープだが奥は豪華！？

前田和男

おおさかミュージアム雑感 (22)

枚方散策

加藤英一

続・韓国通信 漢江の辺にて (26)

フィリバスター

金 徳 煥

講演 琉球—基地と自治をめぐる課題

松島泰勝

□第 192 号（夏季号） 2016 年 7 月

特集●憲法は誰のものか

知る権利と国家の秘密

三木由希子

表現の自由を守るためにヘイト・スピーチ処罰を

前田 朗

官報を旗印にした権利の活用と女性

大西祥世

在日コリアンの目からみた日本国憲法

金 光敏

障害者差別解消と憲法

尾上浩二

図書紹介

谷口真由美著『日本国憲法 大阪おばちゃん訳』

谷合佳代子

『憲法って、どこにあるの?』

松下圭一著『市民立憲への憲法思考』

大矢野修

連載●なにわ路上観察紀行 第 45 回 兵庫県赤穂市界隈

製塩がもたらした? 勸善懲悪の演劇空間

前田和男

おおさかミュージアム雑感 (23)

遊園地あれこれ

加藤英一

連載●朝日新聞資料探訪 第 35 回

写真でみる飛行会②

石原佳子

続・韓国通信 漢江の辺にて (27)

はじめての選挙、投票

金 徳 煥

地方で活躍する高学歴・若年層の人材育成

久保友美

第 1 期市民自治講座 民主主義再考—原理的に考える (第 1 回)

自由と平等から民主主義を考える

岡本仁宏

□第 193 号（秋季号） 2016 年 10 月

特集●消費増税再延期を問い直す

消費増税再延期をどう考えるか

星野 泉

窮乏化する自治体財政とその課題

飛田博史

社会保障改革の課題とその行方

松本 淳

すべての人が受益する社会保障施策の可能性

澤井 勝

図書紹介

三木義一著『日本の納税者』

伍賀偕子

大塚茂樹著『原爆にも部落差別にも負けなかった人びと』

矢作 弘

連載●なにわ路上観察紀行 第 46 回 奈良市界隈

鹿に惹かれて古都めぐり

前田和男

おおさかミュージアム雑感 (24)

言の葉を尋ねて

加藤英一

続・韓国通信 漢江の辺にて (28)

前官礼遇

金 徳 煥

大阪における学校選択制の導入過程の再検討

濱元伸彦

大阪市立大学大学院創造都市研究科の

解体・再編策からみえるもの

水野博達

第1期市民自治講座 民主主義再考—原理的に考える (第2回)

ナショナリズムから民主主義を考える

岡本仁宏